



大人も、子どもも、  
“ここで暮らし続けたい”

と思える町へ。

学校教育につきましても、新しい時代に即した質の高い教育の実現に向け、ICT支援員の配置による授業支援や教職員向けの活用研修等を深化するとともに、小中学校の一人一台端末の更新および白鷹中学校への電子黒板の導入などにより、ICTを活用した個別最適かつ創造性を育む学びの充実を図ります。

また、学校環境の改善に向け、各小学校のトイレの洋式化を実施するとともに、スクールバスの更新や白鷹中学校グラウンドの排水対策により安全な教育環境の構築に取り組みます。

そのほか、おいしく安全安心な学校給食の提供に向け、地元食材の積極的な活用に努めながら、味や品質を確保してまいります。

### 地域の担い手の育成

人口減少等により、地域を取り巻く環境は大きく変化しております。

各産業分野における担い手不足に対応するため、まちの仕事を組み合わせさせたマルチワークを提供することで移住希望者の受け皿となる地域人材ベースキャンプの運営を引き続き支援してまいります。

荒砥高等学校支援関連は、生徒数

の確保を最重要課題として捉え、魅力化計画を基に、小規模校の特色を生かした生徒一人一人の学力に応じたきめ細かな学習指導や基礎学力の向上に取り組むほか、オンライン教育コンテンツの活用に対する支援などを継続して実施してまいります。

生涯学習、芸術文化面では、生涯学習振興計画に基づき、町民ニーズに沿った多様な学習機会の創出を図るため、引き続き、町民自らが企画し実施する自発的な生涯学習活動への支援を行うほか、利便性の向上と地域づくり活動の活性化を図るため、山峡の里交流広場の改修を行います。

スポーツの推進につきましては、若鮎マラソン大会をはじめとした各種イベントを継続実施するほか、町営スキー場の利用者が安心してスキーを楽しむことが出来るよう、ペアリフトの改修を行います。

### 施策の柱「産業・経済」

#### 農業の振興

気候変動による食料生産の不安定化や持続可能な環境への配慮など農業を取り巻く情勢が急速に変化する中、地域の特色をいかしつつ情勢の変化に対応した魅力ある産地の形成に向け、計画

的なブロックローテーションの取組なども含め、需要に応じた生産を関係機関と連携し進めてまいります。

併せて、農地の将来像となる地域計画の実現に向け、基盤整備や農地の集積・集約による作業の効率化と農地利用の最適化を図るとともに、日本型直接支払交付金事業の取組を通し、集落機能および農村環境の維持・向上と、農村地域の振興につなげてまいります。

また、農業従事者が減少する中、多様な担い手の確保や雇用就農への支援を継続するほか、本町の農産物や資源を活用した新たな価値やビジネスの創出による農業所得の向上に向け、6次産業化の拠点となる施設整備を進めてまいります。

#### 林業の成長産業化

本町の森林の多くは本格的な利用期を迎えており、「白鷹町森林（もり）」とつながる暮らしビジョン」に基づき、伐つて、使つて、植え、そして育てる「緑の循環システム」の構築に向け、航空レーザ測量によるデジタルデータを活用した筆界想定図により、効率的な森林境界明確化、森林資源の把握を進めてまいります。

また、森林資源の活用と森林林業

※1 シームレス…継ぎ目のないこと／※2 ブロックローテーション…ほ場をいくつかのブロックに分けて毎年、転作を実施するブロックを変えていく方式



# 令和7年度 施政方針と予算

— 人、そして地域がつながり 輝き続ける 潤いのまち —

**第** 6次総合計画後期基本計画の下、新たな一歩を踏み出す令和7年度は、前期基本計画の評価・検証を踏まえつつ、町の将来像の実現に向け、重点4分野である「人づくり」「産業・経済」「地域力」「定住化」を施策の柱として引き続き着実に進め、持続可能なまちを目指してまいります。

特に、重点プロジェクトとして掲げる「持続可能な人口対策」として、多様な人材確保に向けて新たな人の流れを形成する取組や、子育ておよび若者世帯の希望を叶える環境の整備や支援、魅力的な地域づくりへの支援など、これまで実施してきた対策をさらに前に進めていくとともに、「暮らし」「しごと」の面からの支援やPRに取り組みすることで転入促進・転出抑制を図りつつ、女性や子育て世代、若者に選ばれるまちづくりを進めてまいります。

## 2つの重点施策

### ① 行政のデジタル化

デジタル技術の活用により、町民の皆さまの利便性向上を図るとともに、業務を効率化することで住民サービスのさらなる充実を図るため、引き続き、行政のデジタル化を推進してまいります。

令和7年度におきましては、町公式SNSと連携した公共施設予約システムや図書館システムの構築などにより住民サービスの向上を図るほか、自治体DXを担う人材の育成に向けて各種研修に取り組んでまいり

### ② シームレスなまちづくり

ます。

第6次総合計画後期基本計画では、これまでのコンパクト・プラス・ネットワークの考え方に加え、交通等の物理的なネットワークだけでなく、デジタルネットワークも活用しながら時間や場所の制約を克服する<sup>※1</sup>シームレスなまちづくりを目指しております。

人口減少社会において、今後、ますます重要な役割を担う町立病院および健康福祉センターを核とした、第2期健康と福祉の里構想の推進や、県都山形市と本町を繋ぐ重要な路線である国道348号の再整備に向け

た取組、デマンド交通の町外延伸便の運行等を継続するとともに、行政手続きのデジタル化等により利便性の向上や負担感の軽減に取り組んでまいります。

## 施策の柱「人づくり」

### 子育てしやすい

#### 環境づくり

出生数の減少が続く厳しい状況ではありますが、

「子ども家庭センター」を中心に関係機関との協力をより一層進め、デジタル技術も活用しながら、引き続き子育て世代の方々が安心して出産、子育てができる相談支援に取り組んでまいります。

また、保育料無償化や出生祝金の交付を継続するとともに、新たに、言語の理解能力や社会性が高まる5歳児を対象に健康診査を実施し、発達障がいなどの特性の早期発見と適切な支援につなげてまいります。

### 教育の充実

デジタル化やグローバル化と

いった社会的変化が急速に進む時代において、社会を生き抜く力を育み、子どもたちの可能性を広げる取組が求められています。